小児がん在宅医療
ガイドブック

（財）在宅医療助成 勇美記念財団

はじめに

小児がんのお子さんとご家族が、地元やご自宅で闘病したいと希望されても、これまで治療を行ってきた病院を離れることに、大きな不安を感じることが少なくないといわれています。その理由として、「子どもを診てくれる在宅のクリニックが、本当に地元にあるのだろうか」「クリニックが見つかったとしても、どのような医療サービスが受けられるのだろうか」「入院治療から在宅医療にスムーズに移行できるだろうか」「何かあった時の対応はどうなっているのだろうか」など、主にクリニックと医療サービスの内容に関する不安が挙げられます。小児の在宅医療を進めるためには、まず子どもたちの診療に応じてくれる在宅医療機関の把握と、提供可能な医療サービスなどの情報公開、それまで小児がんの治療を行ってきた病院と在宅医療機関とのネットワークの構築が必須であると考えます。

がん治療の専門病院が集中している東京でさえも、小児がんの子どもたちが在宅で療養することは少なく、これまではほとんどの子どもたちがずっと病院で過ごしていました。

しかし、2007 年に施行されたがん対策基本法の中で、がん治療の早期から緩和ケアが適切に導入されることの重要性が述べられています。つまり、日本においても、病状にかかわらず、患者さんの生活の質（quality of life；QOL）をできるかぎり高く保ちながら、治療を行っていくことが大切であると認識されるようになってきました。

成人だけでなく、小児においても自宅で過ごせるかどうかは生活の質に直結する重要なポイントです。特に病気の進んだ時期に、上述したような不安が解消されれば、できるだけ自宅で過ごしたいと願われる患者さんやご家族が多いと思われます。

そこで、小児がんのお子さんの診療が可能な東京都内の在宅医療機関を調べ、小児がんのお子さんが在宅医療を始められる際に役立つガイドブックを作成することにしました。

2010 年 3 月

辻　尚子

（東京都立小児総合医療センター　血液・腫瘍科）

目次

Ⅰ．小児がんのお子さんの受け入れが可能な東京都内の在宅クリニック ……5
Ⅱ．各クリニックの紹介 ……7
Ⅲ．つらい症状があるときの在宅でのケアのしかた ……24
　1．呼吸が苦しそうです ……24
　2．咳がつらそうです ……26
　3．吐き気がおさまりません ……27
　4．下痢がつらそうです ……29
　5．脱水にならないか心配です ……30
　6．便秘で困っています ……31
　7．食欲がありません ……33
　8．お腹に水がたまっています（腹水） ……34
　9．痛みがつらそうです ……35
　10．むくみがつらそうです ……37
Ⅳ．在宅でのこころのケアについて ……38
Ⅴ．困ったときに ……39
　1．都の相談窓口 ……39
　2．患者支援団体 ……39
　3．このガイドブックに関するお問い合わせ先 ……40

Ⅰ. 小児がんのお子さんの受け入れが可能な東京都内の在宅クリニック

2009 年 2 月、財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団のホームページをもとに、検索可能な東京都内の全在宅クリニック（85 施設）に対して、在宅医療に関するアンケート調査を行いました。その結果、44 施設（51.8%）から回答があり、その中で、小児がんのお子さんの受け入れが可能とお答えいただいた 17 施設をご紹介します（図 1、表 1）。

図1　小児がんのお子さんの受け入れが可能な東京都内の在宅クリニック（17 施設）

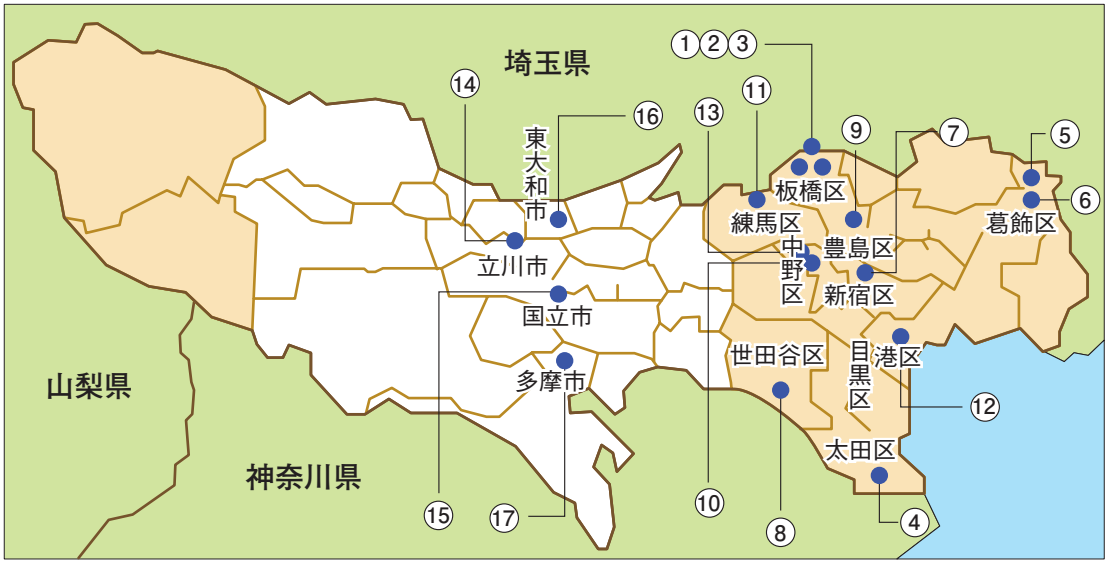


表1　小児がんのお子さんの受け入れが可能な 23 区内の
在宅クリニックと所在地（17 施設）

病院名	所在地（〈　〉内は掲載ページ）
①水野医院	〒175-0093 板橋区赤塚新町 1-17-1 TEL：03-3559-2111　FAX：03-3550-0185　〈7〉
②はちすクリニック	〒174-0076 板橋区上板橋 1-26-13 TEL：03-5922-5055　FAX：03-5922-5055　〈8〉
③佐藤クリニック	〒175-0082 板橋区高島平 6-1-1 TEL・FAX：03-5997-9828　〈9〉
④鈴木内科医院	〒143-0023 大田区山王 3-23-8 TEL：03-3722-1853　FAX：03-3775-1007　〈10〉
⑤東金町内科クリニック	〒125-0041 葛飾区東金町 7-5-8 ロイヤルクレセント 1F TEL：03-5648-5715　FAX：03-5648-5716　〈11〉
⑥わたクリニック	〒125-0054 葛飾区高砂 5-36-7 水戸ビル 2F TEL：03-5648-7025　FAX：03-5648-7035　〈12〉
⑦曙光会コンフォガーデンクリニック	〒162-0054 新宿区河田町 3-2 TEL：03-3357-0086　FAX：03-3357-0035　〈13〉
⑧恵泉クリニック	〒157-0065 世田谷区上祖師谷 1-35-15 シオン烏山 101 号 TEL：03-3326-5408　FAX：03-3326-5481　〈14〉
⑨要町ホームケアクリニック	〒171-0043 豊島区要町 1-11-11-203 TEL・FAX：03-3957-7501　〈15〉
⑩中村診療所	〒164-0012 中野区本町 5-39-2 TEL：03-3381-3797　FAX：03-3229-2391　〈16〉
⑪ねりま大塚クリニック	〒176-0012 練馬区豊玉北 6-3-3 第 8 平和ビル 303 TEL：03-3948-2246　FAX：03-3948-2262　〈17〉
⑫結び葉クリニック	〒106-0032 港区六本木 3-2-24 リパーロ六本木 SOHO 1A TEL：03-5575-6389　FAX：03-5575-0699　〈18〉
⑬かみさぎキッズクリニック	〒165-0031 中野区上鷺宮 3-8-14 TEL：03-3577-8400　FAX：03-3577-8420　〈19〉
⑭立川在宅ケアクリニック	〒190-0002 立川市幸町 5-71-16 コンフォートフラッツⅢ　1 階 TEL：042-534-6964　FAX：042-534-6965　〈20〉
⑮新田クリニック	〒186-0005 国立市西 2-26-29 TEL：042-574-3355　FAX：042-574-3388　〈21〉
⑯村山大和診療所	〒207-0014 東大和市南街 2-3-1 TEL：042-562-5738　〈22〉
⑰ひとみタウンケアクリニック	〒206-0024 多摩市諏訪 1-65-1 永山ハウス 1F TEL：042-338-3281　FAX：042-338-3282　〈23〉

① 水野医院

〒175-0093 板橋区赤塚新町 1-17-1　TEL：03-3559-2111　FAX：03-3550-0185

【院長】水野　重樹

【病院のホームページ】なし

【往診エリア】クリニックから、およそ半径 1 km 以内

院長　水野　重樹

【専門分野】在宅医療、脳神経外科

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。

【輸血】赤血球輸血・血小板輸血はできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】業者と提携して、用意することができます。

連携医との共同診療体制もただ今、構築中です。

② はちすクリニック

〒174-0076 板橋区上板橋 1-26-13　TEL：03-5922-5055　FAX：03-5922-5055

【院長】蜂巣　将

【病院のホームページ】なし

【往診エリア】板橋区、豊島区

院長　蜂巣　将

【専門分野】在宅医療

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。

【輸血】輸血はできません。

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア、在宅酸素療法などが可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

ご本人、ご家族の希望にそって、できるかぎりのお手伝いをしたいと思います。

③ 佐藤クリニック

〒175-0082 板橋区高島平 6-1-1　TEL・FAX：03-5997-9828

【院長】佐藤　恵

【病院のホームページ】なし

【往診エリア】板橋区（高島平）

院長　佐藤　恵

【専門分野】在宅医療、消化器外科

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。

【輸血】赤血球輸血・血小板輸血はできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方は行っていません。

【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

24 時間、365 日連絡できます。少しでもご不安の少ない在宅療養を支援します。

④ 鈴木内科医院

〒143-0023 大田区山王 3-29-1　TEL：03-3722-1853　FAX：03-5743-3656

【院長】鈴木　荘一

【病院のホームページ】http://www.myclinic.ne.jp/clinic_s/pc/index.html

【往診エリア】クリニックから、およそ半径 2 km 以内

院長　鈴木　荘一

【専門分野】在宅医療、消化器内科

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。乳児を除く（2 歳以上）、すべての年齢の方の診療が可能です。

【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

地域の皆様の『かかりつけ医』として、皆様のお役に立ちたいと考えています。皆様の生活に少しでも貢献できることが、医師の冥利と思っております。

⑤ 東金町内科クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町 7-5-8 ロイヤルクレセント 1F
TEL：03-5648-5715　FAX：03-5648-5716

【院長】石垣　宏
【病院のホームページ】http://www2s.biglobe.ne.jp/~ishigaki/HKC.htm
【往診エリア】葛飾区、埼玉県三郷市

院長　石垣　宏

【専門分野】在宅医療、消化器内科
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。基本的に全年齢の方の診療が可能ですが、状況により難しい場合もあります。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）
【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。
【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

初期から末期まで、外来でも在宅でも、20 年以上多くのがん患者さんを診てきた院長が対応いたします。がんの早期発見に力を入れています。皮膚疾患一般、中耳炎など、通常の小児科外来も開いています。

⑥ わたクリニック

〒125-0054 葛飾区高砂 5-36-7 水戸ビル 2F
TEL：03-5648-7025　FAX：03-5648-7035

【院長】渡邉　淳子
【病院のホームページ】http://www002.upp.so-net.ne.jp/gf7jwata/
【往診エリア】葛飾区、江戸川区・足立区・墨田区

院長　渡邉　淳子

【専門分野】在宅医療、緩和医療
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）
【検査・治療】血液検査が必要な場合、血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。
【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法、ベッド上で使える簡易トイレなどが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

わたクリニックは、在宅で過ごしたいという患者さんを対象とした往診専門のクリニックです。がん患者さんの症状コントロールも可能です。患者さんとご家族の思いに添えるような温かみのある医療を目指しています。

⑦ 曙光会コンフォガーデンクリニック

〒162-0054 新宿区河田町 3-2　TEL：03-3357-0086　FAX：03-3357-0035

【院長】木下　朋雄

【病院のホームページ】http://www.shokoukai.com/index.html

【往診エリア】新宿区、港区、千代田区

院長　木下　朋雄

【専門分野】在宅医療、呼吸器内科、皮膚科、整形外科（複数医師にて対応）

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。

【診療可能な年齢】乳児を除く（2 歳以上）、すべての年齢の方の診療が可能です。

【輸血】赤血球輸血は可能ですが、血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法、胃ろう、人工呼吸器、ベッド上で使える簡易トイレなどが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

曙光会は在宅医療を専門としたクリニックです。どのような状態であっても、本人、ご家族が在宅療養を希望なされているならば、当院は全面的に支援させていただきます。

⑧ 恵泉クリニック

〒157-0065 世田谷区上祖師谷 1-35-15 シオン烏山 101 号
TEL：03-3326-5408　FAX：03-3326-5481

【院長】川崎　啓正
【病院のホームページ】http://www.keisen.or.jp/
【往診エリア】世田谷区、杉並区、調布市、狛江市

院長　川崎　啓正

医師　角岡　秀一

【専門分野】在宅医療（緩和医療）、血液内科、一般内科、消化器内科
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血ともに可能です。
【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方は、がん基幹病院と連携して行っています。
【当院で使用可能な医療器具等】輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法、経管栄養、胃ろう、人工呼吸器などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

病気による身体的苦痛のみではなく、ご本人やそのご家族様の不安や精神的苦痛を少しでも取り除けるような医療を、スタッフ一同協力し合って行っていきたいと思っています。

⑨ 要町ホームケアクリニック

〒171-0043 豊島区要町 1-11-11-203　TEL・FAX：03-3957-7501

【院長】吉澤　明孝

【病院のホームページ】http://www.kanamecho-hp.jp/

【往診エリア】豊島区、板橋区、北区、練馬区、文京区、中野区、新宿区

院長　吉澤　明孝

【専門分野】在宅医療、緩和ケア

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。およそ 10 歳以上のすべての年齢の方の診療が可能です。

【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

当院は昭和 32 年の開設以来、病院の基本理念である『和顔愛語（わげんあいご）』の精神で患者様 1 人ひとりと向かい合ってきました。これからも患者様中心の医療を最新の医療技術をもって、地域に根ざした病院づくりを目指してまいります。

⑩ 中村診療所

〒164-0012 中野区本町 5-39-2　TEL：03-3381-3797　FAX：03-3229-2391

【院長】中村　洋一

【病院のホームページ】なし

【往診エリア】渋谷区・中野区・杉並区のうち、甲州街道・山手通り・環七・青梅街道に囲まれている地域

院長　中村　洋一

【専門分野】在宅医療、消化器、内科、漢方、緩和ケア、認知症ケア

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。

【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法、ベッド上で排便できる簡易トイレなどが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

外来と在宅医療（人工呼吸器や胃ろうなど医療依存度の高い方も大勢抱えています）を行っています。訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業も併設し、在宅医療を担っています。また、漢方薬の治療も行っていて、総合的な医療提供を目指しています。

⑪ ねりま大塚クリニック

〒176-0012 練馬区豊玉北 6-3-3 第 8 平和ビル 303
TEL：03-3948-2246　FAX：03-3948-2262

【院長】森　宏太郎
【病院のホームページ】http://www.ootsuka-group.jp/
【往診エリア】練馬区

院長　森　宏太郎

【専門分野】在宅医療
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。
【診療可能な年齢】乳児を除く（2 歳以上）、すべての年齢の方の診療が可能です。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は基本的にできません。（近隣の病院に依頼することは可能です）
【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。
【当院で使用可能な医療器具等】輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

在宅医療のパイオニアである黎明会大塚クリニックグループでは、「住みなれたわが家で暮らしたい」「慣れ親しんだ地域で生活したい」と願うすべての患者様のニーズにお応えするエキスパートな人材を育て、「地域に愛され、信頼される」医療機関を目指しています。退院後にご自宅へ帰ることへの「安心の支え」となりたいと考えています。

⑫ 結び葉クリニック

〒106-0032 港区六本木 3-2-24 リパーロ六本木 SOHO 1A
TEL：03-5575-6389　FAX：03-5575-0699

【院長】司馬　清輝
【病院のホームページ】http://www.musubiha.com/
【往診エリア】六本木、元麻布、東麻布、南麻布、広尾、東、恵比寿、白金、白金台、高輪、三田、芝、芝大門、芝公園、新橋、西新橋、虎ノ門、赤坂、浜松町、他、要相談

院長　司馬　清輝

【専門分野】在宅医療、緩和ケア、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、泌尿器科
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は、状況により可能です。
【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。
【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法、ベッド上で排便できる簡易トイレなどが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

当院では訪れた方に健康と医療についてよく理解していただきたいと考えています。ですから薬や医療行為、検査内容についても可能なかぎり説明させていただきます。

⑬ かみさぎキッズクリニック

〒165-0031 中野区上鷺宮 3-8-14
TEL：03-3577-8400　FAX：03-3577-8420

【院長】大谷　俊樹
【病院のホームページ】http://web.me.com/toshi1010/
【往診エリア】中野区、練馬区、西東京市

院長　大谷　俊樹

【専門分野】小児科、小児外科（漢方）
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血はできません。
【検査・治療】詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。
【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などに対応します。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

小児科と小児外科の両面から、また西洋医学と東洋医学の視点から、1人ひとりに適切なバランスを考えた治療を心がけています。外来診療が中心で、訪問診療は木曜日になります。

⑭ 立川在宅ケアクリニック

〒190-0002 立川市幸町 5-71-16　コンフォートフラッツⅢ　1 階
TEL：042-534-6964　FAX：042-534-6965

【院長】井尾　和雄
【病院のホームページ】http://www.tzc-clinic.com/
【往診エリア】立川市、国立市、国分寺市、昭島市、東大和市、日野市、武蔵村山市、福生市、羽村市、瑞穂町
（府中市、八王子市、小平市、あきる野市の一部）

院長　井尾　和雄

【専門分野】在宅医療、緩和ケア
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。赤ちゃんからお年寄りまで、すべての年齢の方の診療が可能です。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は可能です。
【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。
【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法などが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

当院は在宅緩和ケアの専門診療所です。難病、寝たきりの患者さんも数多く診ています。病に年齢はありません、家で過ごしたい方すべてが対象です。

⑮ 新田クリニック

〒186-0005 国立市西 2-26-29　TEL：042-574-3355　FAX：042-574-3388

【院長】新田　國夫

【病院のホームページ】なし

【往診エリア】国立市

院長　新田　國夫

【専門分野】在宅医療、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、小児外科、心臓血管外科、皮膚科、整形外科

【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。子どもからお年寄りまで、すべての年齢の方の診療が可能です。

【輸血】赤血球輸血は可能ですが、血小板輸血はできません。

【検査・治療】血液検査が必要な場合の末梢血管からの採血、痛み止め・抗生物質などの点滴は可能です。中心静脈カテーテルが留置されている場合は、そちらを使用することができます。必要があれば、高カロリー輸液も行います。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】PCA ポンプ、輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、ストーマケア物品、吸引・吸入器、在宅酸素療法、ベッド上で排便できる簡易トイレなどが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

クリニックの診療および併設の通所リハビリ、訪問リハビリ、往診を行っています。

⑯ 村山大和診療所

〒207-0014 東大和市南街 2-3-1　TEL：042-562-5738　FAX：042-567-8552

【院長】森　清

【病院のホームページ】http://www.yamatokai.or.jp/facilities.html
http://www.yamatokai.or.jp/kango.html

【往診エリア】東大和市、武蔵村山市

【専門分野】在宅医療、血液内科

【小児がん診療】まずは小児科主治医から当院へ相談いただけると幸いです。診療内容の詳細は、当診療所にお問い合わせください。

【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は状況により相談いたします。（近隣の病院への相談をすすめることもあります）

【検査・治療】小児科主治医と相談のうえ、末梢血管からの採血、点滴、中心静脈カテーテル（含高カロリー輸液）も使用することができます（要相談）。内服の抗がん剤の処方も可能です。

【当院で使用可能な医療器具等】詳しくは、当診療所にお問い合わせください。

在宅サポートセンターは、地域社会と調和し、利用者様とご家族が住み慣れたご自宅で安心して生活を送れるよう、さまざまな医療、福祉サービスの提供を目指します。通院困難な方のお宅に、医師が定期的に訪問診療します。また、在宅スタッフが話し合いを行い、ケアプランにもとづいて状態を把握し、適切なケアや介護を行います。

⑰ ひとみタウンケアクリニック

〒206-0024 多摩市諏訪 1-65-1　永山ハウス 1F
TEL：042-338-3281　FAX：042-338-3282

【院長】大池ひとみ
【病院のホームページ】http://htc-clinic.com
【往診エリア】多摩市とその周辺

院長　大池ひとみ

【専門分野】在宅医療（緩和・リハビリ・認知症）、家庭医療、内科、小児科
【小児がん診療】診療内容の詳細は、当クリニックにお問い合わせください。基本的にすべての年齢の方の診療が可能です。
【輸血】赤血球輸血・血小板輸血は状況によります。
【カテーテル、点滴等】中心静脈カテーテルからの採血・点滴は可能です。必要があれば、高カロリー輸液も行います。
【当院で使用可能な物品】輸液ポンプ、中心静脈カテーテル、中心静脈ポート、気管カニューレ、経管栄養、胃ろう、人工呼吸器、吸引・吸入器、在宅酸素療法、ストマケアなどが使用可能です。詳しくは、当クリニックにお問い合わせください。

「最期まで、安心して、住み続けられるまちづくり」をモットーにした外来・在宅に対応する診療所です。近隣の保育園と協働して、病や障害をもつ子供も大人も、もたない子供も大人も、みながともに楽しく暮らし、命を支え伝えていくというプロジェクトを展開しています。多職種連携を大切に、緩和期も含む小児訪問リハビリも行っています。

1. 呼吸が苦しそうです…

●はじめに

「息苦しい」という感覚は、人間にとって不安が強いものです。どのくらい息苦しいかを判断するには、次のようなことに注意して観察します。

① 普段歩けるお子さんの場合、いつものように歩けますか。
② 普段と同じように会話できますか。
③ ご飯はどのくらい食べられていますか。
④ 自分で着替えができるお子さんの場合、いつものようにできますか。
⑤ いつもより呼吸が速いですか。
⑥ いつもに比べて、落ち着きがない感じですか。
⑦ 汗をたくさんかいていますか。
⑧「ウーウー」とあえぐような息をしていますか。

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●治療のしかた

その時の状況に応じ、一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。ここでは一般的な治療の内容を記します。

① **モルヒネ**：モルヒネは、息苦しさを和らげるのによく使われます。これは、「息苦しい」という感覚そのものを和らげてくれるといわれています。
② **抗不安薬**：不安を和らげるお薬を使うと、息苦しさが和らぐことがあります。ドルミカム®、ロヒプノール®といった、ベンゾジアゼピン系といわれるお薬です。不安が和らぐことで、落ち着いてゆっくり息ができるようになります。ウィンタミン®、コントミン®といった、フェノチアジン誘導体といわれるお薬も効果があります。
③ **ステロイド**：肺の炎症を抑えることで、息苦しさが良くなるとされています。
④ **気管支拡張薬**：喘息の時に使うお薬ですが、息苦しさが和らぐことがあります。

●家でできること

① 酸素：すでにご自宅に酸素がある場合には、酸素の流量をあげると良くなることがあります。

② 口すぼめ呼吸：風船を膨らませる時のように、口をすぼめて息を吐くと、肺の膨らみが良くなり、息苦しさが和らぐことがあります。

③ 姿勢：頭を少し高くしたり、座位をとると良くなることがあります。

④ 涼しい空気：肌に風が感じられるようにすると良いといわれています。うちわであおいであげたり、ベッドに置ける小さな扇風機を設置したり、窓から外の涼しい空気を入れるとよいでしょう。

⑤ 冷えピタ：冷たいもので頭を冷やすとよいことがあります。

⑥ マッサージ：背中をさすってあげたり、つらいところをマッサージしながら、不安を和らげるようにするとよいでしょう。

⑦ はり治療：東洋医学の一種であるはり治療が有効なことがあります。

⑧ その他：安心して眠れるような環境を整えてあげたり、家族が落ち着いた態度で接するだけでも、子どもたちは安心し気分が良くなることがあります。

2. 咳がつらそうです…

●はじめに

咳は、もともと異物や余分な痰などを外に出すために必要な、自然な反応です。しかし、それもあまりに多いと苦痛になってきます。咳がある場合には、次のようなことに注意して観察します。

① 咳だけでなく、息苦しさもありますか。
② 声がかすれていますか。
③ 熱やのどの痛み、鼻水もありますか。
④ 何かをのどにつまらせたり、つまりそうになった後の咳ですか。

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●治療のしかた

咳の原因となっているものを治療しないと、なかなか咳はおさまりません。原因と、その時の状況に応じ、一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。ここでは一般的な治療の内容を記します。

① モルヒネ、コデイン：モルヒネやコデインは、咳を和らげる作用があります。
② 咳止め：アズベリン®、メジコン®などの咳止めが有効なことがあります。
③ 局所麻酔薬の噴霧：確立した方法ではありませんが、マーカイン®という局所麻酔薬をスプレーで噴霧することで、咳が和らぐことがあります。

●家でできること

① 加温・加湿：乾燥した空気よりも、加温・加湿された空気のほうが良いといわれています。入浴後、お風呂場の戸を開けておいたり、清潔に手入れした加湿器などをベッドのそばに置くとよいでしょう。

② 姿勢：咳がひどいときには、寝ているより座った方が楽です。

③ 呼吸法：咳の合間にゆっくり深呼吸することを訓練します。

④ マッサージ：背中をさすってあげたりマッサージしながら、不安を和らげるようにするとよいでしょう。

⑤ その他：安心して過ごせるような環境を整えてあげたり、家族が落ち着いた態度で接するだけでも子どもたちは安心し、気分が良くなることがあります。

3. 吐き気がおさまりません…

●はじめに

吐き気や嘔吐はよくみられ、非常につらいものです。原因としては、モルヒネなどの薬による副作用、高カルシウム血症、便秘、腸閉塞、胃炎などがあります。脳腫瘍など、脳に病気がある場合には、脳圧の上昇による吐き気もみられます。吐き気がある場合には、次のようなことに注意して観察します。

① 吐き気はいつ始まりましたか。
② 1 日の中で、いつ頃が一番吐き気が強いですか。
③ ずっと気持ち悪いですか？　それとも時々気持ち悪くなりますか。
④ ご飯を食べると良くなりますか？　悪くなりますか。
⑤ 最後に便が出たのはいつですか？　どんな便でしたか。
⑥ 吐いた物は、食べ物ですか？　それとも黄色い色をした胆汁ですか。
⑦ 他にもつらい症状がありますか。（たとえば腹痛や頭痛）

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●治療のしかた

吐き気や嘔吐の原因を見つけ、それに応じた治療を行います。
原因と、その時の状況に応じて一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。
ここでは、一般的な治療の内容を記します。

① 吐き気止め：多くの種類があります。代表的なものには、デカドロン®、プリンペラン®、アタラックス P®、ナウゼリン® などがあります。
② ガスが溜まっている場合：お腹にガスが溜まっている場合には、ガスコン® が有効なことがあります。錠剤、粉薬、シロップがあります。
③ 腸閉塞がある場合：適切な処置で腸閉塞が治ると、吐き気が改善することがあります。
④ 腸液が溜まっている場合：腸液を減らすサンドスタチン® というお薬が有効なことがあります。

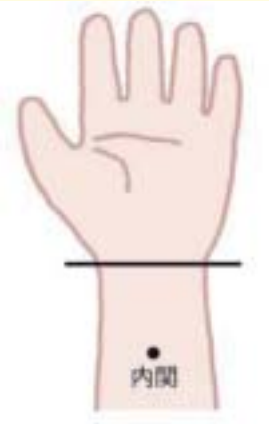
●家でできること

① 食事回数：1 日 3 回の食事の代わりに、少量の食事を 1 日 6～8 回に分けて、ゆっくりとってみましょう。

② 食事内容：できればにおいの少ない食べ物、熱いものより冷たい食べ物が良いといわれています。

③ 姿勢：食後 30 分～1 時間くらいは座位でいるか、頭を高くした姿勢でいると楽です。

④ はり治療・指圧：東洋医学の一種であるはり治療や指圧が有効なことがあります。
右の図の内関（ないかん）と呼ばれるツボを親指などで押すと、吐き気が改善するといわれています。米粒などをテープで貼り付けておくと、軽い刺激が持続的に加わるので、効果が長続きします。



⑤ リラクゼーション：見て気分が良くなるものや、聴いて心が落ち着くような音楽があると、吐き気がおさまることがあります。

4. 下痢がつらそうです…

●はじめに

ひどい下痢は、体の水分バランスを崩し、脱水から血圧の低下を招くこともあります。また、そこまでひどい下痢でなくても、栄養不良や不眠、外出できないといった日常生活上の苦痛を生じることがあります。下痢がある場合には、次のようなことに注意して観察します。

① 下痢はいつ始まりましたか。
② 1 日で何回下痢していますか。
③ 下痢の前に硬い便が出ますか。
④ 食事の前あるいは後に多いですか。
⑤ 下痢で夜に目が覚めますか。
⑥ 便はどんな色をしていますか。（黒？　黄色？　赤？）
⑦ 下痢のときに痛みを伴いますか。
⑧ 下痢便は嫌なにおいがしますか。
⑨ 尿はいつもどおり出ていますか。それとも減っていますか。
⑩ ご飯は食べられていますか。

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●治療のしかた、および家庭でできること

① **全身的なこと**：もし下剤を飲んでいたらすぐに止めましょう。乳製品、熱い食べ物、冷たい食べ物、辛い食べ物、脂肪分、果物、生野菜、玄米、コーヒーなどのカフェインは避けましょう。もし、食べられるようであれば、軟らかいパン、ご飯、めん類などの炭水化物から試してみてください。

② **水分補給**：尿が減少していて水分補給が必要な場合には、糖分・ミネラルを含むスポーツドリンクか、または自家製のドリンク（世界保健機関〈WHO〉は、1 リットルの水に 2 g の塩と 2 g の砂糖を入れたものを勧めています。好みにより、レモン汁で風味づけをしてもよいとされています）により水分をとるとよいでしょう。

③ **トイレ**：スキンケアが重要です。トイレットペーパーよりも、温めた石鹸水でおしりを洗う方が良いとされています。おしりを洗った後は、軟膏（ワセリンなど）やパウダーでケアするとよいでしょう。

④ **下痢止め**：子ども用の小児用ロペミン®、コデインやモルヒネが使われることもあります。これらが無効な場合、サンドスタチン®が使われることもあります。

⑤ **抗炎症薬**：胃腸の炎症が原因で下痢をしている場合には、炎症を抑える NSAIDs（非ステロイド系消炎鎮痛薬）が有効なことがあります。

5. 脱水にならないか心配です…

●はじめに

病状が進行していくと、水分をあまりとらなくなったり、下痢・嘔吐などで水分を失ったりして、脱水傾向になることがあります。しかし、この時期にはむしろ脱水状態でいるほうが、本人にとって楽だということも多いため、点滴などが必要かどうかは慎重に判断する必要があります。その理由は、

① 脱水傾向のほうが尿の回数が減り、本人にとって快適なことが多い。
② 痰や気道内の分泌物が少なくなり、呼吸が楽になる。
③ 胃液が減ることで、吐き気や嘔吐が少なくなる。
④ 腫瘍の周りの浮腫（むくみ）がとれ、痛みが和らぐ。

などがいわれています。しかし、脱水傾向でかつ腎臓の機能が悪い場合にモルヒネなどのオピオイド系麻薬鎮痛薬が投与されていると、薬の代謝産物が蓄積し、興奮・吐き気・意識障害などを起こす原因にもなります。そのため、次のような症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

① 急に飲んだり、食べたりできなくなりましたか。
② 特に腎臓が悪いとは言われていないのに、尿量が減少しましたか。
③ 皮膚をつまんだとき、そのまましわが残りますか。（ツルゴール低下）
④ のどが乾いていますか。
⑤ 立ち上がったときに、めまいやふらつき、頭痛などの症状がありますか。
⑥ 便秘、吐き気や嘔吐はありますか。
⑦ 脈は速いですか。
⑧ 気分が落ち着かず、興奮していますか。

●治療のしかた

脱水を改善したほうが苦痛の緩和につながると考えられるとき、点滴が行われます。原因と、その時の状況に応じて一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。

●家でできること

嘔吐や下痢などで急速に脱水になった場合には、点滴による水分補給が行われますが、病状が進行すると、脱水がなくても喉が渇くことが多くなります。その場合、水分を少しずつ飲ませてあげたり、氷をなめさせてあげたり、味の良いアイスクリームやシャーベットを少し口に含ませてあげるとよいでしょう。

6. 便秘で困っています…

●はじめに

便秘は非常に不愉快なものなので、腹痛や嘔吐の原因にもなるため、できるだけ予防に努めます。また、便秘になってしまった場合には、なるべく早めに対応する必要があります。便秘がある場合には、次のようなことに注意して観察します。

① 便はどのくらいのペースで出ていますか。
② 水分や食べ物は、何をどのくらいとっていますか。
③ 最後に便が出た日はいつですか？　どんな便でしたか。（量、硬さ、色）
④ これまでもよく便秘になりましたか。
⑤ 腹痛を伴いますか。
⑥ 吐き気や嘔吐はありますか。
⑦ お腹ははっていますか。（腹部膨満）
⑧ 便に血が混じりますか。
⑨ 痔はありますか。

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●予防のしかた

便秘は予防が大切です。ここでは一般的な予防の方法を記します。

① **運動**：できる範囲で、なるべく体を動かしましょう。座ったり、立ったりするだけでも良いです。1日中寝たきりであれば、寝たままでできる運動（横を向く、壁や机などの動かないものを腕でじっと押す）を行うことも良いです。
② **水分**：適度な水分をとるように心がけましょう。
③ **食事**：食後あるいは食事中に、お茶やコーヒーなど温かいものを一緒にとると、腸が刺激されて動きやすくなります。野菜（スープやジュースでも可）も無理のない範囲で食事に取り入れましょう。
④ **介護**：便意を感じたときに、すぐにトイレに行けるような介護体制が必要です。トイレを我慢しているうちに便秘になることはよくあります。
⑤ **薬**：副作用で便秘になる薬もあります。主治医の先生に確認しておくとよいでしょう。

●治療のしかた

便秘の原因を見つけ、それに応じた治療を行います。原因と、その時の状況に応じ、一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。一般に、便秘の治療には、下記のような下剤が使われます。

① **軟化膨張剤**：便を軟らかくする薬です。これは、腸からの水分の吸収を抑制して、便に水分が多く含まれるようにする薬です。酸化マグネシウムなどが代表的です。このタイプのお薬を飲むときのポイントは、多めに水分をとることです。

② **刺激性下剤**：腸を動かすことで便秘を解消するお薬です。ラキソベロン®、プルゼニド®、テレミンソフト®などが代表的です。市販のセンナ茶も効果があります。

① と ② を組み合わせて使うと、より効果があります。

7. 食欲がありません…

●はじめに

病状が進行すると、ほとんどの人は食欲が低下し、体重が減ります。目に見えて痩せていくと、本人はもちろん、家族にとっても不安が増しますが、食べられないから体重が減るのではなく、病気が進んだために体の中で起こるさまざまな反応によって体重が減る場合がほとんどです。このような時に、無理に栄養の点滴を行ったり、胃に入れたチューブから強制的に栄養剤を入れると、本人の苦痛が増すことが多いので、注意が必要です。

●治療のしかた

食欲低下の原因やその時の状況に応じ、一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。ここでは、一般的な治療の内容を記します。

① ステロイド：食欲が改善することがあります。

② 吐き気止め：プリンペラン® などの吐き気止めを食前に内服すると、胃もたれがなくなり、食が進むことがあります。

③ プロゲステロン：成人ではしばしば使われますが、高価です。基本的に小児には使われません。日本では、ヒスロン H® という名前のお薬です。

●家でできること―食欲がないときの工夫

① 口腔ケア（うがい、歯磨きなど）をしっかり行いましょう。口がベタベタして不快だと食欲が減少します。

② 本人の好きな食べ物を、いくつか添えてあげるとよいでしょう。アイスクリーム、チーズ、ポテトチップスなどの高カロリー食品もカロリーを増やすよい方法です。

③ 食事の時間がストレスではなく楽しい時間になるよう、本人が食べたいものを少量用意するようにしましょう。

④ 食事の内容について栄養士さんに相談してみるのもよいでしょう。

8. お腹に水がたまっています（腹水）…

●はじめに

腹水の初期の症状は、浮腫（むくみ）、腹部不快感、腹痛、体重の増加、ウエストサイズの増加（ズボンが履けないなど）などです。また、疲れやすい、まっすぐ座れない、吐き気がする、すぐにお腹がいっぱいになる（早期満腹感）、便秘などもみられます。腹水が増加すると、肺を圧迫して呼吸困難などが起こることがあります。

●治療のしかた

腹水の原因と、その時の状況に応じて一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。ここでは一般的な治療の内容を記します。

① **利尿薬**：スピロノラクトン、ループ利尿薬が代表的です。併用すると、より有効です。しかし、尿が増えることでトイレに体力を使い、疲れきってしまう場合もあるので、注意が必要です。

② **腹水の除去**：小さな針を使って、お腹にたまった水を直接外に出す方法です。成人では 1 回に 2〜5 リットルの排液が可能といわれています。しかし、再貯留することが多く、あまり頻回に行うと、電解質（塩分など）のバランスが崩れたり、蛋白質不足を起こすことがあり、注意が必要です。

③ **化学療法**：腹部に抗がん剤を注入することで、腹水を減らす治療ですが、まだ確立したものではありません。

④ **カテーテル留置**：カテーテルを留置して、自宅で排液できるようにしたり、腹部と血管をつないで自動的に腹水が血管内に戻るようにする治療法です。

⑤ **サンドスタチン®**：腸液を減らしたり、再吸収を促進することで腹水を減らすお薬です。副作用として便秘になりやすいので、注意します。

●家でできること

ウエストを締めつけない、ゆるいズボンを履かせてあげてください。

息が苦しい時や息切れがする時は、頭を高めにして寝ると楽です。

9. 痛みがつらそうです…

●はじめに

痛みは身体的な苦痛だけでなく、不安や恐れなどの心理的な苦痛、通常の日常生活ができないという社会的苦痛など、さまざまな苦痛の原因となるため、痛みを和らげることはとても大切です。痛みがある場合には、次のようなことに注意して観察します。

① 体のどこを痛がっていますか。
② どんな痛みですか。（たとえば、チクチクするような、ズキンとするような、あるいはしびれるような痛みですか。それとも場所がどことは言いにくい、鈍い痛みですか）
③ その痛みはいつからありますか。
④ ずっと痛いですか。それとも時々痛くなりますか。
⑤ どのくらい痛いですか。（夜に痛みで目が覚めますか。体を動かすと痛いですか。じっと安静にしていても痛いですか）
⑥ どんなことをすると、痛みが強くなりますか。
⑦ どんなことをすると、痛みは和らぎますか。

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●治療のしかた

痛み止めを上手に使うことで、ほとんどの痛みは和らげることができるといわれています。原因と、その時の状況に応じて一番良い方法を在宅のクリニックの先生が判断します。ここでは、一般的な治療の内容を記します。

① **鎮痛薬**：鎮痛薬の主役は、オピオイドといわれる麻薬性鎮痛薬です。日本で使えるオピオイドには、モルヒネ・オキシコドン・フェンタニルの 3 種類があります。痛みの種類によっては、非ステロイド系消炎鎮痛薬といわれる NSAIDs（エヌセッズと読む）やステロイド、抗けいれん薬、抗うつ薬などと併用すると、より有効な場合があります。
② **鎮痛薬以外の方法**：骨転移による痛みには、放射線治療が有効な場合があります。また強い副作用を起こさない程度の抗がん剤も、病気の進行を抑え、痛みの軽減に役立つことがあります。はり治療、マッサージ、指圧、音楽やアロマテラピーなどのリラクゼーションは、痛みを和らげる効果があるといわれています。お子さんの好みや症状に合わせて、鎮痛薬と組み合わせて用いるとよいでしょう。

●家でできること

① そばにいること：孤独や不安感は痛みを増強させます。できるかぎり 1 人にせず、そばにいてあげることが大切です。夜もそばで一緒に寝てあげると安心するでしょう。

② マッサージ：背中をさすってあげたりマッサージしながら、不安を和らげるようにするとよいでしょう。

③ その他：安心して過ごせるような環境を整えてあげたり、家族が落ち着いた態度で接するだけでも子どもたちは安心し、痛みが和らぐことがあります。

10. むくみがつらそうです…

●はじめに

むくみ（浮腫）は、さまざまな原因で起こります。主なものとして、長い間同じ姿勢でいたり、栄養不足、塩分や水分の過剰、お腹の張り、血の流れの悪さなどが挙げられます。むくみがある場合には、次のようなことに注意して観察します。

① 体のどこがむくんでいますか。
② 一番むくんでいる場所はどこですか。
③ いつ頃からむくんできましたか。
④ むくんでいる所を押すとへこみますか。
⑤ むくんでいる場所を挙上すると、むくみは良くなりますか。
⑥ むくんでいる所の皮膚の表面は滑らかですか。がさがさしていますか。

これらの症状をよく観察し、在宅のクリニックの先生や看護師さんに相談してください。

●治療のしかた

むくみを完全になくすことは難しいことが多いのですが、次のようなことを行うと改善する場合があります。

① **少しでも体を動かす**：足がむくんでいる場合、少しでも歩くと良くなることがあります。歩くのが難しい場合は、ベッドの上での簡単な運動でもかまいません。
② **マッサージ**：むくんでいる場所を優しくさすってあげたりマッサージするとよいでしょう。
③ **体位**：むくんでいる部分が、心臓より高い位置になるように体位を工夫します。
④ **薬物療法**：使用している薬の副作用でむくんでいる場合には、お薬の内容を再検討することがあります。点滴で投与している水分が多くてむくんでいる場合には、点滴を減らすと良くなることがあります。尿量を増やすことでむくみが改善すると考えられる場合には、利尿薬を投与することもあります。

病状が進むにつれ、子どもたちの不安は増していきます。体の自由が利かないことへのつらさと、頑張っても病状が良くならないことへの悲しみ、自分だけが世界から取り残されたような孤独感を感じることが多いようです。

これまでの多くの研究から、そういった子どもたちが一番恐れていることは、ひとりになること（孤独）だといわれています。そのために、多くの子どもたちがお母さん・お父さんに「そばにいてほしい」「帰らないでほしい（入院している場合）」と訴えます。

在宅医療をされている場合は、子どもたちはいつもお母さん・お父さん・兄弟姉妹のそばにいられるので、そういう意味では恵まれた環境にあります。たとえ十分にご飯が食べられなくても、家族と食事の時間を共にし、一緒にテレビを見たり、ペットに触れたり、たとえ入浴が難しくても、一緒に足浴や手浴を楽しむなど、一緒に過ごす団欒（だんらん）の時間をとるようにしてみてください。

夜になると、不安は強くなりやすいので、お母さん、またはお父さんが添い寝をされているご家族も多いようです。

V. 困ったときに

1. 都の相談窓口

●東京都在宅緩和ケア支援センター
（http://www.kanwacare.jp/contact/index.html）

東京都在宅緩和ケア支援センターでは、緩和ケアに関する療養上の悩みや不安などのご相談を受け付けております。一人で悩まず、お気軽にお電話ください。
受付時間：毎週水・金曜（祝日等除く）13～16 時　03-3269-0994（直通）
所在地：〒162-8543 東京都新宿区津久戸町 5-1
東京厚生年金病院　緩和ケア病棟

※各区市町村でも各種窓口にてご相談を受け付けております。
（http://www.kanwacare.jp/consultation/index.html）

〈関連リンク〉
①東京都医療機関案内サービス「ひまわり」
（http://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq/qq13tomnlt.asp）
②東京都
（http://www.metro.tokyo.jp/）

2. 患者支援団体

●財団法人 がんの子どもを守る会
（http://www.ccaj-found.or.jp/）

がんの子供を守る会は、小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨で 1968 年 10 月に設立されました。本会は患者とその家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、患者とその家族が中心となり、医療関係者をはじめとする多くの方々の支援のもとに活動をしています。

〈相談事業〉

（財）がんの子供を守る会では、専門のソーシャルワーカー 5 名および嘱託医が、小児がんに関するあらゆる相談に応じています。

たとえば…

「病気についての情報がほしい」

「何か社会的な支援は受けられないか…制度について知りたい」

「子どもに病気についてどのように説明したらいいのだろう？」

「付き添っている自分自身が疲れてしまった。誰かに話を聞いてほしい」

など

相談者のプライバシーや秘密は必ず守ります。病気の情報、経済的な問題、教育や保育に関する問題、病院とのコミュニケーションなど、お悩み事がありましたら、いつでもご連絡を下さい。費用はかかりません。

受付時間：平日 10～16 時まで　TEL：03-5825-6312（相談専用）

平日 10～18 時まで　TEL：03-5825-6311（代表）

所在地：〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1 丁目 3 番 12 号

アフラックペアレンツハウス浅草橋

3. このガイドブックに関するお問い合わせ先

東京都立小児総合医療センター　血液・腫瘍科

〒183-8561 東京都府中市武蔵台 2-8-29

TEL：042-300-5111　*E-mail：naoko_tsuji@tmhp.jp

部長　金子　隆

医長　湯坐有希

医員　辻　尚子*　大山　亘　寺尾陽子

謝辞

このガイドブックを作成するにあたり、貴重な機会と援助を与えてくださった、財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団に、心より感謝申し上げます。

小児がん在宅医療ガイドブック

2010 年 3 月 31 日　発行　　非売品

発　　行　（財）在宅医療助成 勇美記念財団
編　　集　小児がん在宅医療ガイドブック編集委員会
　　代表：辻　尚子
制　　作　株式会社　青海社